平成30年度第2回檀原市子ども・子育て会議 会議録

日時：平成31年2月7日（木） 午後3時～

場所：檀原市役所分庁舎2階 会議室A

【出席委員】天根委員・伊瀬委員・上田（邦芳）委員・喜多委員・亀甲委員・桐山委員
小西委員・辻之内委員・三浦委員・森田委員・森本委員・吉川委員

【事務局】岡崎副市長・吉本教育長・藤井教育委員会事務局局長・栗原教育委員会事務局副局長
吉田健康部部長・竹本こども官・加護健康部副部長
井原健康部副部長兼こども未来課長・川田健康増進課課長
池田子育て支援課課長・岩本教育総務課課長・戸田学校教育課課長
森下こども未来課指導主事・中谷こども未来課課長補佐・楠田こども未来課主査

【傍聴者】0人

1. 開会

2. 副市長あいさつ

3. 議事

(1) 基本目標別事業計画の進捗状況について

小西会長 挨拶

事務局 資料1について説明

(小西会長)

ありがとうございます。ただ今説明がありました基本目標別事業計画の進捗状況につきまして、ご質問・ご意見等ございましたらおっしゃってください。

(伊瀬委員)

3ページのNo. 6「一時預かり事業の充実」について、こども未来課と学校教育課に確認させていただきたいと思います。学校教育課から各幼稚園における預かり保育実績が報告されましたが、こども未来課の一時預かりと教育委員会の一時預かりは定義が違うはずですが、

こども未来課の担当となる、いわゆる社会福祉事業における一時預かりとは、在園児ではない子どもたちを預かる事業のことを指します。一方、教育委員会の担当となる、文科省管轄が行うところの一時預かりというのは、幼稚園などの在園児を例えば2時以降にも預かる場合を指しているのではないかと思います。まずはその事実確認と、そうであれば、この一時預かりという言い方は同じですが意味合いが大きく異なる言葉を今後どう整理するかを考

えることが必要ではないかと思えます。もちろん両方とも市民のための事業ではあるのですが、福祉事業における対象は一般市民の方で、3ページに示されている預かり保育実績の対象は各幼稚園の園児です。言い方が同じでも意味合いが異なるのではないかと思えますので、言葉の整理と掲載場所の調整が今後必要になってくるのではないかとお伝えしておきます。

5ページのNo. 11「放課後児童健全育成施設の整備・充実」では、放課後児童健全育成施設の改修・改築、移転について記載されています。これは公立の話ですが、一方、民間の保育園でも改築されている経緯があります。しかし、奈良県から補助金は一切出ません。他方、近隣の府においては放課後児童健全育成事業に取り組むことが喫緊の課題としてあり、民間の社会福祉法人にも補助金を出すように条例の改正もされており、これからそういうことも増えてくるかと思えます。橿原市の保育の受け皿は必ずいぶん充実してきているように思いますが、一方、放課後児童健全育成事業については認可が下りないまま細々と実施している社会福祉法人もあります。最近では地域の公民館で実施されている法人もあると風の便りで聞いております。是非そういったところにも補助金が出るようにご配慮いただければと思えます。

23ページのNo.68「児童虐待防止に向けたネットワーク活動の推進」についてです。保育園の代表として、この橿原市内での連携のスキームをお示しいただければと思えます。各民間の保育園でも何となくイメージはもっており、事例があった場合には最初はこども未来課に相談、次は子育て支援課に相談というイメージはありますが、対応方法を保育園の職員に具体的に伝えられるよう、「橿原市としてはこのような流れで取り組んでいる」といった絵をいただけると幸いです。

なぜこのことを殊更強く申したかといいますと、奈良県が主催する処遇改善Ⅱの研修会がございまして、私どもも職員を出しておりますけれども、そこでそういう宿題が出ていたからです。他市の園の職員の方が「うちの市町村にはそういう仕組みがありません」と堂々とおっしゃったそうで、私としましては橿原市内の保育園の代表者として県に対し恥ずかしくないように職員教育をしていきたいという思いもありますので、そのようなスキーム表をお示しいただければ有り難いと感じる次第でございまして。

(小西会長)

今の3点につきまして、何かお示しをお願いできればと思えます。

(事務局：井原)

一時預かり事業につきまして補足説明をさせていただきます。こども未来課のほうで記載させていただいている一時預かりといいますのは、先ほど委員がおっしゃいましたように保育所にお子さんを入所させていない保護者の方が、例えばご自身の通院やリフレッシュのために利用されるものとなっております。幼稚園における一時預かりとは在園児を夕方まで預かる事業でありまして、この2つを一緒にNo. 6「一時預かり事業の充実」のところにしている状況でございます。

次の議事「教育・保育と地域子ども・子育て支援事業の進捗状況について」の資料2におきましては幼稚園における在園児を対象とした預かり保育と、こども未来課と子育て支援課が担当課となっている預かり保育以外の一時預かりとを分けているのですが、こちらの資料1におきましても、きちんと分けていくような形で記載していきたいと思えます。

(伊瀬委員)

意味合いが大きく異なりますので、仕分けの仕方を関係部署間でもう一度協議されたほうがよいと思います。なぜなら、内容のところに、多様化する保育ニーズへの対応ということで、傷病等による緊急時の一時預かりと書いてありますが、この文章は幼稚園における一時預かりとはなじまないですね。もう一步踏み込んで申しますと、私どもの運営する認定こども園においての1号認定（教育部分）に係る預かり保育と2号認定（保育部分）に係る延長保育では意味合いが異なるのですが、その仕組みをご存じない方がお聞きになると混乱されるので、市で言葉の整理をされてはいかがかと思います。

(事務局：池田)

放課後児童健全育成施設につきまして、改修等の際に県から補助金が出ないというお話がございました。こちらはかなり需要が増えていまして、国からはまず学校・幼稚園等の余裕教室を活用するよとということ、その方向で進めてはいるのですけれども、委員さんがおっしゃいますように地域のほうでも放課後児童クラブに関してご尽力いただいているとお聞きしております。我々としましても地域の方々のご協力を得ながら放課後児童健全育成事業を進めていきたいと思っておりますので、いろいろ工夫していきたいと存じます。補助金についても県・国のほうに問い合わせをしまして、そういう方々にお出しできる補助金がないかというのを今一度調べたいと思っております。

児童虐待防止に向けたネットワークのスキームですが、樫原市では要保護児童対策地域協議会というものを機能させております。その中でどの機関と連携しているかというスキームがございますので、近いうちに資料を用意いたしまして委員さんのほうにご説明にあがらせていただきたいと思います。

(伊瀬委員)

私ではなく樫原市の各保育士が県の研修会等に行ったときに恥をかかないようサポートしてほしいということです。こども未来課のほうで私立保育園の事務連絡会議等を開催されていると思っておりますので、そこを通じて下ろしていただくよう、よろしく申し上げます。

(亀甲委員)

5ページのNo.11「放課後児童健全育成施設の整備・充実」についてですが、金橋児童クラブが定員超過に伴いまして平成32年度に移転する運びとなりました。それまで1年ぐらありますが、その間どのような体制を取られるのかをお聞きしたいと思います。

9ページのNo.27「予防接種」に関連してですが、今インフルエンザが猛威をふるっています。就学前児童の現状がどうであるか、ご存じであれば教えていただきたいと思います。また、インフルエンザの予防接種費用に助成金が出る自治体もあると聞いております。小学校では学級・学年閉鎖の拡大も懸念されますので、その辺り市としての考え方があれば教えていただきたいと思います。

児童虐待に関しては保護者からの恫喝及びその際の対応の不備についてよく報道されていますが、樫原市内でもそういう大きな事案がもしあれば聞かせていただきたいと思います。

(事務局：池田)

金橋小学校区の放課後児童クラブにつきましては来年の夏以降小学校の余裕教室を使わせていただくことになったのですが、それまでは地元の空家を使わせていただきます。31年度の4月から小学校の改修工事が終わるまでの間お借りするということで現在進めております。3月中に部屋の中を改修させていただきまして、この4月から第2放課後児童クラブとして約20人の児童を受け入れる形となります。

児童虐待の関係ですが、昨今の報道を受けまして児童相談所もかなり敏感になっております。つい最近も放課後児童クラブに来られているお子さんの目の上にあざがあると指導員から連絡があり、こちらとしましてもすぐ確認するために小学校に行きまして先生、お子さん、お母さんからお話を聞き、児童相談所にも関わっていただきました。結果的に大事には至っていませんでしたが、やはりすぐに動かなければならないということで迅速に行動していただいている状況でございます。

(事務局：戸田)

インフルエンザにつきましては、委員のおっしゃるとおり学級閉鎖が多数発生している状況でございます。その状況を毎日市のホームページで更新しております。

昨今の児童虐待の件でございますが、本市では総務課に法務専門官が3名おります。そのうち1名の方につきましては学校の巡回指導等をしていただいているわけですが、千葉県の事案を受けまして校長会並びに園長会において法務専門官による研修を実施しています。その中で、保護者からの恫喝があった場合には即答せず一旦保留し、法務専門官と協議する、警察に相談するなどして、必ず即答を避けるようにと指導しております。

(事務局：川田)

予防接種の費用助成について説明させていただきます。

現在65歳以上の方、若しくは60歳以上の身体障害手帳1級をお持ちの方は定期予防接種となり、一部が自己負担で、残りは公費で払うというような位置づけになっておりますが、それ以外の方につきましては任意予防接種となるため費用助成はございません。

ただ、予防接種というとインフルエンザ以外にも多様なものがあり、全て定期接種になっているわけではありませんので、予防接種を受けず病気にかかった場合どのような状態になるのか、予後の問題、接種の優先順位等さまざまなことを総合的に判断する必要があるかと思っております。インフルエンザもその中の1つでありますので、今後その辺りの情報も収集しながら、市として少しでも市民の健康を守るという観点で研鑽を積み、検討を重ねたいと思っております。

(2) 教育・保育と地域子ども・子育て支援事業の進捗状況について

事務局 資料2について説明

(小西会長)

ありがとうございます。ただ今説明がありました教育・保育と地域子ども・子育て支援事業の進捗状況につきまして、ご質問・ご意見等ございませんか。

(伊瀬委員)

6 ページから 9 ページにかけて載っている放課後児童健全育成事業のデータについて確認をさせていただきたいと思います。ここでは各小学校区に設置されている放課後児童クラブの数字だけを記載されていると思うのですが、その一方で社会福祉法人のともえ学園さん、愛育保育園さんでも放課後児童クラブを運営されていますし、私ども榎原保育園の保護者会においても放課後児童クラブを運営しております。また、NPO 法人でも実施されているところがあるようです。その数字をきちんと反映していかなければ今後放課後児童健全育成事業の数値計画を出していく中で間違いが生じてしまいますし、事実として数字を上げていただきたいと思います。これは回答を求めているのではなく、事実を反映したデータの数字を記載されるほうが今後の計画を立てる際に正確な数値を出せるのではないかという意見として述べさせていただいた次第です。

(小西会長)

ほかに何かありませんか。

(吉川委員)

5 ページの時間外保育事業ですが、実績を見ますと 27 年度から 28 年度にかけて約 100 名減少、28 年度から 29 年度にかけて約 30 名増加と、増減が激しい状況です。そして、今年度においては下半期も上半期と同様の数値だと想定すると約 700 名のご利用があるということで、約 170 名も増加すると予測できます。この増加の原因は何でしょうか。31 年度以降もこの増加が続いていくとすれば収容が難しくなるおそれがありますし、保育士、幼稚園教諭の不足も今以上に問題になります。増加の原因について今後お考えいただければと思います。

(3) 第 2 期榎原市子ども・子育て支援事業計画作成にかかるスケジュール

事務局 資料 3-1、資料 3-2、資料 4 について説明

(小西会長)

ありがとうございます。ただ今説明がありました第 2 期榎原市子ども・子育て支援事業計画作成にかかるスケジュールにつきまして、ご質問・ご意見等ございませんか。

ないようですので、続いて議事 4 に移ります。

(4) アンケート調査について

事務局 資料5-1、資料5-2、資料5-3、資料5-4について説明

(小西会長)

ありがとうございます。参考資料3に載っていますアンケートに対するご意見について皆さんにご審議いただくわけですが、まずは資料5-2、資料5-3の1ページ、挨拶文の8行目にあります「必要量」という表現が必要かどうかについてはいかがでしょうか。

(桐山委員)

この意見を書いたのは私です。「必要量」という言葉は、いわゆる業界用語ではないでしょうか。やはり親としては100%支援してもらいたいですし、取り組みに対する意見を聞くだけでよく、「必要量」についての意見を求めるというのをわざわざ表記しなくてもよいのではないかと感じました。この言葉は行政側でもっていけばよいのではないかと思います。

(小西会長)

削除してもよいのではないかといいことですね。皆さん、よろしいでしょうか。それでは「必要量」という言葉は削除していただけますか。よろしくお願いします。

(天根委員)

その単語を抜くと文章としておかしくなるということはありませんか。

(事務局：井原)

「必要量」を削除してみますと「子育て支援の取り組みに対するご意見などをうかがうため」という文章になりますので、意味は通じると考えております。

(小西会長)

「必要量」を削除しても文章として成り立つようでございます。では、これでよろしいですね。

次は同じく資料5-2、資料5-3の1ページ、「ご記入にあたってのお願い」の8番でございます。アンケートに関する問い合わせ先が調査委託機関になっていますが、こちらにつきましてのご審議をお願いいたします。

(桐山委員)

この意見も私が書きました。前は問い合わせ先を分けておられませんでしたよね。このアンケートは市が主体的に行うものなので、市で質問を受ければよいのではないかと思います。アンケートに関する問い合わせ先を調査委託機関にすると、そちらへ丸投げしているような印象を一般市民に与えてしまうのではないのでしょうか。

(小西会長)

こちらにも調査委託機関を削除でよいわけですかね。ほかの委員さんはどうですか。

(喜多委員)

市が行うアンケートなので市を主体にしたほうがよいと私も思います。

(小西会長)

調査委託機関を記載しなくてもよいということですね。

(伊瀬委員)

記載していないのに調査委託機関で回答を集計するとなると、逆に不誠実かもしれません。

(小西会長)

調査委託機関についても裏に一文を入れるなど、対応をよろしくお願いします。

(天根委員)

回答の返信先は市、調査委託機関のどちらになりますか。

(事務局：楠田)

発送は調査委託機関で、返信先は榎原市です。

(小西会長)

ここにつきましては、また調整していただきたいと思います。

次に資料5-2、資料5-3の問1、校区を回答する意図は何か、特定の校区に偏る可能性はないかというご意見ですが、先ほど事務局から説明がありましたように必要な項目とのことですので、問1はこのままでよいでしょうか。ご審議をお願いいたします。

(吉川委員)

これを書いたのは私ですが、本当の無作為抽出だと特定の校区に集中する可能性がなきにしもあらずなので、その辺りをお考えなのかと思って書いただけです。校区別のニーズを知りたい、校区割で抽出するというのであれば、それで結構かと思います。

(小西会長)

事務局のほうで校区が偏らないように抽出していただければと思います。

次、資料5-2の問14-2は「特に幼稚園の利用を強く希望しますか。」という設問ですが、表現の仕方についてのご意見でございます。この「強く希望しますか。」という表現について、ご審議をお願いします。

(吉川委員)

これも書いたのは私でございます。この問14-2の前段が無償化に関連した設問で、保護者

の皆さんが今一番関心のあることだと思えます。ただ、実際のところ内容がまだ確定しておりません。ですから、不確定な状況下での設問になるかと思えます。限りなく保護者の負担を軽減するというのが無償化の最も妥当な理解の仕方であって、ただになるような感覚ではありません。まだ十分な情報が行政にもわたっていない状況の中「特に幼稚園の利用を強く希望しますか。」と聞かれても困るのではないのでしょうか。どこまでが「強く」なのか、基準値がわからない設問をなぜしなくてはならないのか、その意図がわからず、この設問はいかがかと思って書かせていただきました。

(小西会長)

この件につきまして、事務局から何かございますか。

(事務局：井原)

この「強く」という表現につきましては、庁内の委員会でも議論になったところでございます。国の資料3-2にありますように共働き等家庭の子どもの幼稚園利用について正確にニーズを把握するための設問例が出ているのですが、本日ご審議いただければということで、国の設問例のとおりに記載いたしました。委員からは、強くは希望しないから「いいえ」に丸をつけてしまう、そちらに誘導していくような形にならないかというご意見もいただいております。そのため、「強く」を抜きまして単に「利用を希望しますか」としていくのがよいかどうか、ご審議いただければと思います。

(天根委員)

「はい」か「いいえ」かの2択しかないのですか。回答の仕方を変えて、選択肢を増やせばよいのではないかと思います。

(吉川委員)

選択肢の問題もあるかもしれませんが、幼稚園を希望するかどうかだけをなぜ聞くのだろうかと思えます。

(事務局：井原)

共働き家庭でしたら今までは保育所だけしか選べませんでした。いろいろなサービスを展開する中、幼稚園の利用意向について把握しようという設問だと思います。聞き方につきましては事務局のほうで再検討させていただきます。

(小西会長)

次に資料5-3の問20、お子さんが地域活動などに参加しているかという設問でございます。親と一緒に参加か子どもだけの参加かをお聞きしたほうがよいのではないかというご意見ですが、いかがでしょうか。ご審議をお願いしたいと思います。

(天根委員)

行政課題として、とりあえず参加したことがわかればよいのですか。

(事務局：井原)

子どもが参加しているかということを知りたいと思っております。前回の調査でも聞いておりますので、経年比較もしていきたいと考えているところでございます。

(小西会長)

今の事務局の回答でよろしいですかね。

(天根委員)

子どもが参加しているかを知りたいのであれば、これでよいかと思えます。

(桐山委員)

この意見も私が書きました。子どもが地域の活動に参加しているか、参加していないかということだけを知りたいのであれば、これでよいかと思えます。親が参加することで子どもも一緒に参加する、それで地域がつながっていくというところへもっていきたいのだろうかと思ったものですからこの意見を書いたのですが、単に参加・不参加を知りたいだけならば、これで結構です。

(小西会長)

アンケート調査についての審議は以上でよろしいでしょうか。ありがとうございました。

(事務局：井原)

いろいろと議論をしていただきまして、ありがとうございました。もう一度事務局で検討しますと回答した部分もでございます。その再検討案を会長・会長職務代理者にご確認いただきまして進めていくということによろしいでしょうか。

【異議なし】

(小西会長)

それでは事務局、続きをお願いします。

事務局 資料6-1、資料6-2について説明

(小西会長)

ありがとうございます。ご質問・ご意見等よろしいですか。それでは、以上で議事を終了したいと思います。皆さん、どうもありがとうございました。

4. 次回の会議の日程・内容について

平成31年度は計画の策定に入っていきますので この子ども・子育て会議を4回開催する

予定をしております。委員の皆様にはご負担をおかけすることになりますが、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。先の開催にはなるのですが、直前に日程を提案しますと調整が大変難しくなると予想されますので、現時点で仮の日程をお示しさせていただきたいと思っております。

1回目は7/4（木）を提案させていただきたいと存じます。1回目には平成30年度の進捗状況及びアンケート結果を報告しまして、計画骨子案のご審議をお願いしたいと考えております。第2回は9/30（月）、第3回は11/21（木）、第4回は2/6（木）を提案させていただきたいと存じます。

今まで子ども・子育て会議は木曜日開催が続いておりましたが、木曜日をご都合の悪い委員さんがいらっしゃるため、違う日程も設定してみようということで一度ご提案させていただいたところです。

開始時間はこれまで15時からとじていましたが、皆様お忙しいと思いますので、14時から1時間半から2時間程度で終わるように設定をしていきたいと思っております。

ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

5. 閉会

本日は長時間にわたりまして貴重なご意見やアンケートに対するご審議をいただきまして、誠にありがとうございます。これで会議を終了させていただきたいと思っております。ありがとうございました。